＜先週の説教から＞

『クリスマス礼拝・詩編㉙―天に栄光、地に平和』　武田真治　牧師

詩 編 ２９：１～１１　ルカ福音書 ２：８～１４

毎年、クリスマス礼拝も連続講解説教から語らせて頂いています。今年は丁度月末の礼拝であり、順番では詩編29編です。そして見事にクリスマスと深く関係しているのです。

１節に「神の子らよ、主に帰せよ、栄光と力を主に帰せよ。御名の栄光を主に帰せよ。」とあります。“神の子ら（ベーネ）”とは天使や天に居る者たちのことであり、彼らが天での神様の栄光を讃美しているのです。この様子はまさに主の御降誕の時に羊飼いの元にクリスマスの喜びが知らされた時の讃美と通じます。即ち「すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。『いと高きところ（＝天）には栄光、神にあれ』」です。イエス様の御降誕は、地上では寂しくひそやかな出来事であったかもしれませんが、天では何にもまして素晴らしい、神様の栄光が示される最高の出来事であったのでした。ただ、それは本来、天よりも地上で最高の喜びを持って迎えられるべきでした。主の御降誕は神様が人間を最も顧みられた、人類史上最高の出来事でしたから！

詩編29編は、その天上での讃美の声が、地上へと振り注がれ、世界に鳴り響いて行く様子がその後描かれて行きます。即ち「主の御声は水の上に響く。栄光の神の雷鳴はとどろく。主の御声は輝きをもって響く」と。そのことによって「主の御声は杉の木を砕き、シルヨン（＝荒地の名）を野牛の子のように躍らせる」と。これは具体的には季節が長く厳しい日照りの続く春から夏に掛けての乾季が終り、恵みの雨をもたらす雨季へと切り替わる時に、その兆しとなる“雷鳴”が必ず鳴り響く様子を“たとえ”に用いて、天からの神様の言葉の凄さと働きを教えてくれているのです。故に、「水の上に」声が響いて、水を空へと巻き上げ、雷が森の最も高い木の上に落ちて（＝杉の木を砕き）、そこからいくつかの山火事を起こし、雨を降らして乾燥した大地に植物を新しく生えさせて来るのです。「野牛の子が踊る」とは、喜んで飛び跳ねている様子を指します。それは、荒地に雨が跳ね、草木が芽吹いて、そのやわらかい新芽を食べられると子牛が喜んでいる様子と考えられます。そして「主の御声は雌鹿をもだえさせる（＝ヒール、産みの苦しみを与える）」と。動物にも新しい命が豊かに生まれ始めると。そのように神の御声＝みことばは“潤いの雨をもたらし、新しい命を生じさせる”と告げているのです。まさにクリスマスではないでしょうか！

最後に、“御声”が地へともたらされる結果「神殿のものみなは唱える、『栄光あれ』と。」地上でも賛美するようになると。そして「主が民を祝福して平和をお与えになるように。」と終わります。天上の“神の子らの賛美”が“地上の神の子らの讃美”へと繋がって行くのです。まさに『天には栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。』なのです！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．１月４日（水）20：00
　　Ⅱ．１月５日（木）10：30
聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　成人祝福・新年合同礼拝を覚えて
担 当 者：　（水）岩佐　（木）末留
祈りに覚える人：　飯田さん　　池田さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男　25　　女　61　　計　86
祈祷会　Ⅰ．男4　女3　計7　　Ⅱ．男3　女9　計12
日曜学校　　休　校
燭火礼拝　〈12月24日(土)〉　男26　女47　計73
ひつじ雲の会〈12月27日(火)〉　男 0　女 5　計 5

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週主日礼拝】　１月　８日（日）
聖　書：　創世記　２２：１～１４
　　ヘブライ人への手紙　１１：１７～１９
説　教：　「ヘブライ㊲―息子を献げてしまった！」
　　武田 真治 牧 師
讃美歌：　２７８(1)、３２(1)、２２６(1と2)、
　　４５９(1～3)、９２(1)

【次週当番表】

司式:坂田長老　奏楽:村上　　礼拝:齋藤長老
献金：東　阿部　　受付：鈴木　橘子
会堂準備：飯島　岡本　金刺　中村
看板：岩佐　　週報：金刺　　お花：茨木

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・長老会　・壮年/婦人/ダビデ 各会

週　報

2022年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　　１月　１日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/